

令和2年度 大学開放授業科目(前期)

No.	科目	曜日	時間	教員名	授業概要	備考
1	薬学倫理	月	13:00～14:30 <休憩10分> 14:40～16:10	望月 正隆 黒川 陽介 百溪 江	倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養います。生命倫理、研究倫理に関して、スモールグループディスカッションを活用して学習します。(※一般の方は講義の聴講のみとなります。)	
2	健康科学	火	9:00～10:30	大庭 尚子	身体運動は、健康な生活を維持する上で欠かせない要素の一つです。身体運動を適切に行うことにより、体力の保持・増進、生活習慣病の予防など心身の健康に貢献します。本科目では、生涯にわたって健康で豊かな日常生活を送るために必要な知識として、発育発達や加齢にともなう身体諸機能の変化と身体運動の関わりや、身体運動と健康および体力について、運動生理学やスポーツ科学の視点から講義形式で授業を展開します。 健康管理や身体運動について、メディア上には様々な情報が溢れているが、科学的に実証されている情報を取捨選択する能力を身に付けることを目指します。	担当教員は、運動が嫌いまたは苦手な学生が運動に興味を持ち、「もしかすると運動は楽しいかも？」と少しでも思ってもらえるよう努力します。運動の得手不得手は他人と比較するものではありませんし、運動スキルは神経筋系、全身持久力は呼吸循環系、筋力や柔軟性は主に筋系の機能が大きく関わっていますので、運動実践(反復練習やトレーニング)によってこれらの身体諸機能が可塑的に変化していくこと自体を楽しんで頂ければ幸いです。
3	学術と地域文化1	火	10:40～12:10	望月 正隆 武田 健	人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、物事を多角的にみる能力を養います。宗教、倫理、哲学、文学、外国語、芸術、文化人類学、社会学、政治、法律、経済、地理、歴史、科学史、宇宙、環境等あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、学び、考えます。「人間・社会・科学を幅広く俯瞰できる能力」を養い、「地域の歴史・文化の理解」を深め、「国際性(異文化・国際問題の理解)」を涵養するための科目です。	
4	機能形態学2	水	9:00～10:30	嶋本 顕	人の身体の構造と機能を学習します。	機能形態学1を受講していることが望ましいです。
5	倫理学	水	13:00～14:30	村田 貴信	われわれは、事実に基づく理論的な文脈と価値的・実践的な文脈とが交差する場面に生きています。哲学は、自己自身と世界とについて「よく知る」という課題を立てると述べましたが、この課題は、それが人間の業であるかぎり、また、「よく生きる」という倫理的課題と相即していなければなりません。そうした両様の文脈の緊張と分裂とを孕みつつ、なお一箇の存在であるのが、人間であり、それを底に徹して問うのが倫理学であるからです。ここでは、倫理学の古典的なテキストを通じてそうした問いの実際を見てみましょう。	
6	応用倫理学	水	14:40～16:10	村田 貴信	現代は、科学・技術の時代でありながら、同時に科学・技術への不信が声高に唱えられる時代でもあります。なるほど、科学・技術は、人間の可能性を時空的に飛躍的に拡大しました。しかし、それはまた、世界を単調なものへと平板化しただけではなく、それが生み出したものをつつして歴史が終焉する可能性も現出してしまったかのように見えます。 しかも、科学・技術の急速な進展が、人間の倫理面を置き去りにし、倫理上の重大な問題を引き起こす、という懸念が現実のものとなりつつあるにもかかわらず、「道徳」を語るそのものがますます困難になりつつあります。 こうした状況のなかで、科学を生み出した、近代に固有の思考の枠組みとそれに依拠する技術が人間の生に突きつけている諸問題を一度真剣に省みつつ、感覚でとらえられる形では存在していない悩みや苦しみにも共感することができる想像力と知性との涵養に努めることは、今後どのような進路をとるにせよ、科学・技術に関わる者にとって、欠くことのできない要件である、と言えます。 そこで、ここでは、現代の倫理的諸問題のうち受講者自身が探りをいれ、人間の現実とあるべき人間性と「すれ」を抉り出すことによって、「道徳的であらねばならない」理由がどこにあるかを見定めていくことを目指します。	
7	論理学	水	16:20～17:50	村田 貴信	生理学を学ばなければ呼吸や消化ができないというのでは私たちは生きていくことはできません。同様に、人間は論理学を学んで初めて論理的に正しく思考しはじめるといってはなりません。しかし、呼吸や消化のメカニズムの解明が健康な生にとって不可欠であるように、自分や他人の議論の論理的な正当性を吟味する作業は、思考の健全な展開を期すうえで不可欠の重要性をもちます。そこで、ここでは、伝統的論理学をおもに取り上げ、記号論理学の初歩にも目配りすることによって、論理的に思考することの意味と意義とを明らかにしていきます。	
8	環境論	木	13:00～14:30	中村 洋	私たちの周りで影響が現れている地球温暖化問題について、温度上昇、影響などの科学的情報、解決に向けた国連の取組、各国の温暖化対策への姿勢がなぜ違うのかを学びます。そして自分たちの住む地域で行われている地球温暖化の取組を調べ、今後の対策あり方を考えます。	
9	応用化学入門	金	9:00～10:30	応用化学科教員	この講義では、応用化学科の全教員がそれぞれの専門研究領域に密接に関連した内容、最近の話題をわかりやすく解説、紹介することにより、入学したばかりの学生がこれから4年間当学科でどのようなことを学ぶのか、どのような研究分野があるのか、また、自分たちは卒業後、どのような分野に就職、進歩できるのかなどが具体的に理解できるよう当学科の概要を紹介いたします。	Ⅱ 期間講科目 6月12日(金)～8月7日(金)
10	哲学	金	13:00～14:30	村田 貴信	われわれの生がじつはきわめて不安定なものにすぎないと気づくとき、何をどれほど知っているのか、反省せざるをえなくなる時があるはず。歴史や自然、社会や世界、そして何よりも自分自身について、哲学の歴史をたどりつつ、いちど立ち止まって、見つめなおしてみる機会をもってみましょう。	
11	ドイツ語1	金	14:40～16:10	村田 貴信	英語以外の外国語による情報授受のチャンネルを確保しておくことは重要で、アメリカだけでなく、少なくともヨーロッパのものの見方、考え方も踏まえたうえで、はじめて国際情勢を語りうる、と言えます。限られた時間しか与えられていませんから、問題練習と文章の読解をこなしていながら、発音と文法の基本がしっかりと身につくような形で授業を展開します。	
12	心理学	木 金	木 13:00～14:30 金 14:40～16:10	福田 みのり	人間の心はどのような仕組みをもち、どのような働き方をするのでしょうか、実体のない対象をどう捉えられるのでしょうか。モノ、ヒト、コトにどうかわり、どう対応しているかというのでしょうか。心理学の書物を読んでみても、人の具体的な個別的な心理について書かれていることは少ない。そんな疑問に答えたい、心の世界に科学的に迫ることの面白さと難しさを書きます。	木曜日もしくは金曜日のどちらかの曜日で受講いただけます。
13	物理学 I および演習	月 水 木	9:00～10:30	金田 和博	大学における学習は、それぞれの授業を断片的にとらえるのではなく、個々の授業の関連性を理解した上で効率よく行う必要があります。そのためには、自分が専門とする学問分野を体系的に理解しておくことが重要です。力学は、電磁気学と並んで自然科学のあらゆる分野の基本となる物理学の1分野であり、理科学の学生として身につけておくことは必須です。特に、応用化学科の学生にとっては、2年次以降の統計力学、量子化学等につながることをよく理解した上で意欲的に取り組んでほしい科目です。 この授業では、ベクトルを用いた「力の概念」、「ニュートンの運動の法則」、「力学的エネルギー保存の法則」、「剛体の回転運動」等を中心とした力学の基本を講義します。特にベクトルの演算や微積分を積極的に活用します。	全ての曜日を受講いただけます。 Ⅱ 期間講科目 6月11日(木)～8月6日(木)